

第36回 おかめのてんこもりライブ

阿部美和子(舞鶴市、フォークグループ「123」)
平成29年4月16日



おかめのてんこもりライブ

早川 みなさま、こんにちは。時間になりましたので、ただいまより第36回名田庄多聞の会を開催いたします。本日はようこそお越し下さいました。今日の講師は舞鶴市から来ていただいた阿部美和子さんです。会の案内のチラシにこれまでの経歴等が書かれていますので、私が無粋な紹介をすることは止めにして早速お話を伺うことにします。阿部様、どうかよろしくお願い致します。

はじめに

阿部 こんにちは、舞鶴のレディーババ「おかめ」と申します。本名は阿部美和子です。先日ライブやついているときに、一緒にバンド組んでるおじいさんの一人が今日も来んでもええのに、そこに座ってますけれど(笑)、私のことをミヤンマーのアウンサンスーチーさんに似てるって言ってます。彼女は今でこそ大統領以上の力を持つていると言われてますが、長いこと軍事情権下で自宅軟禁されていたんですよね。そんな人に似てるかなと思つてたら、自宅でカボチャ(自宅南瓜)作ってるからだそうなんです。(笑)

本日はこのような晴れがましい席を頂きまして誠にありがとうございます。普段やつているライブとは様子が違うので少しばかり緊張気味です。横にギター置いてますけど、今日はライブではなくてライブ、つまり「人生」の方です。

「多聞の会」、いい名前ですね。耳の肥えた方々に私ごとときのつまらない話を聞いて頂けるのか心配なんです。ございますが。だいたいこういう場所でお話しされる方って、何かを成し遂げたとか、現在素晴らしい活躍をされておられるとか、まあ少なくとも私のように、どこにでも居る普通のおばさん・と言うより、もう70ですからバアサン、ではない方がいいだと思っんですけど。まあ強いて普通じゃないと言うか、ちよつと変わったっているのは、「スキルズ性進行癌」というやつかいなものを抱えておりまして、残された時間が皆さんよりかなり少なからうということくらいでしょうかね。もしかしたら既に棺桶に片足突っ込んでるかも知れませんが、「あゝ、おもしろい人生やった!」。これが私の今の偽らざる気持ちです。

「終活」について語ってくれて言われたんですけどね、即答しましたねえ。「毎日が生きるのに精いっぱい死ぬことなんて考えてませんから」って。

「じゃあ、その精いっぱいを話せ」って言われましたんで、まあそれで良ければつてことでお受けしたんですが、自分のことを話すのって、すごくやりにくいんです。今更ね、私でなくつて皆さん、どなたでも精いっぱい生きてらつしやると思います。少しでも私のつたない話しが皆さんの明日からの活力になればと願いつつ、お喋りさせてもらおうかと思つています。

つてことば、テーマとして「おかめのてんこもりライフ」、これは最近までFM放送のパーソナリティーをしておりますんですが、私が担当していた番組のタイトルをそのまま持つてきたものなんです。番組の中で自分

の人生を振り返り、またいろんな人をゲストに迎えてお喋りしているうちになんとなくいろんな人生が垣間見えてきたように思いました。

私、話しはそんなに得意じゃございませんので、もしかしたら漫談になつてしまふかもしれませんが、時折下手な歌ではぐらかしてしまおうという小ずるいことも考えておりますので、宜しくお願いします。

きつい抗癌剤で髪の毛が抜けてしまったので、以来、いつも禿げ隠しに帽子を被つてるんですが、これにもおじい共から妙な名前付けられましてね、「ボケ帽子」つて言われています(笑)。何を勘違いされたんか、帽子のファッションショーにも勧誘されてまして(笑)、ハットしたのをきつかけにお洒落もちよつと楽しむようになったんでございます。これがその時の写真です(写真を見せてもらう)。赤煉瓦の中を歩かせてもらつていました。

日本人つて歳をとるほど地味いくな色合いで目立たない無難な服装を心がけるような方が多いんですが、適度なお洒落は人に好感度を与えますし、それに何よりも自分を律し主張するという面では、男女を問わず、若さを保つためにも大事な事と思つています。お洒落するとモチベーションも上がりますからね。先日もね、目一杯お洒落して出掛けたんです。

♪恋人もいないのに バラの花束抱いて いそいそ出かけて行きました
空はいつになく 青く澄んで 思わず泣きたく なるのです

恋人もいないのに バラの花束抱いて これからいったいどこへ行くの
(「恋人もいないのに」、シモンズ)

エレベーターに乗って、ドアを閉めようとした、その時に、突然、よそのおっちゃんが駆け込んで来たんです。エレベーターが動き始めるとそのオッチャーンはじいじと私を見つめるんですよ。目いっぱいのお洒落してきたので、まあ幾分はいい女に見えたか知りませんが。さすがにねえ、この状況下では例えババアと言えども思わず本能的に身構えてしまいました。そのうち「あゝ」って声をかけて来るんですよ。ふたりっきりの密室、ただならぬ緊迫感が漂いましたね。上目づかいにますます警戒しておりますたら、そのオッチャーン曰く、「あゝ、洋服を裏返しに着てますよ」(笑)。なんて。お恥ずかしいことがありまして。皆さんは見るからにシャキッとした方ばかりですけど、私なんかも、近頃はホントのボケ防止に気を配ってないと大変なんです。

スキルス性進行癌

今を去ること1993年、当時の人気キャスター、タレントでもあった逸見政孝さんが「スキルス性進行癌」と言われ48歳の若さで亡くなりました。このことがきっかけになってこの癌が注目を浴びるようになりました。彼は胃癌検診を定期的に受けていましたが、それでも発見が遅れたんです。それほど自覚症状もないままに進行の早い癌なんです。ね。

私の癌もソレやっただんです。私も毎年癌検診は受けておりました。なのに、やっぱり逸見さんと同じスキルス性進行癌。これまで毎日バドミントンとゴルフに明け暮れていたスポーツ馬鹿、元氣だけが取り柄の私だっ

たのに。夫、じゃなくていまはもうオットトトですね、彼も私も聞かされてガンと来ましたね。今時もう癌なんて怖くないと思つてました。しかしね、なかなかどうして調べてみると思つたより手強いですね。

勇ましい高尚なる生涯

スキルスの進行癌は、生存率が大変低くなつております。発見された時にはかなり進んでいるというのが大きな原因の一つで、治療が難しいのが現状だそうですね。転移もあつたりで、手術を行つても再発する可能性が高いそうなんです。従つて殆どの方が手術から1〜2年のうちに亡くなられておるようです。たとえその1〜2年をクリアしても5年は保たないと言われていきます。そんないわば死刑宣告とも受け取れる、とんでもないものを頂きまして、近々自分がこの世から消えてなくなるのかと思つたら、それ以降の私は生き方が大きく変わりました。自分が人生でこの世に何を残せるのかと自問していた日々に、「勇ましい高尚なる生涯」という内村鑑三の言葉に救われました。

つまり私のようにお金も地位も名誉もなくとも、善良に生きることが、最も尊く価値ある生涯だという趣旨なんです。まあ、大層に考えなくても自分らしく生き抜いたらそれでええやないかということ、ようやく晴れやかな気分になれたんです。

「運命よ、そこをどけ、俺が通る」とは、かの有名なバスケット選手マイケルジョーダンの言葉です。この不屈の精神に私はいたく感動致しました。

病気になっても病人にはならへんでえ！、死ぬまで活きるんや！

今この時を大事にしたらええ！密度の濃い人生を、クオリティーオブライフ、生活の質を上げ、加速度も上げて人の1週間分を1日で生きるんや！ポジティブに陽気に行こう！

♪ 陽気に行こう どんな時でも 陽気に行こう

苦しいことは 解ってるのさ さあ陽気に行こう

1. 喜びの朝もある 涙の夜もある 同じ人生なら さあ陽気に行こう

陽気に行こう どんな時でも 陽気に行こう

苦しいことは 解ってるのさ さあ陽気に行こう

2. 嵐吹き荒れても 望み奪われても 悲しみは通り過ぎゆく

陽も輝くだろう

陽気に行こう どんな時でも 陽気に行こう

苦しいことは解ってるのさ さあ陽気に行こう

(「陽気に行こう」、高石ともやとザ・ナターシャ・セブン)

癌告知は極めて冷静に受け止めましたので、返って医者の方が慌てちゃいまして、異様に焦りながら慰めてくれましたけど、私の方は来るものが来たって感じでしたね。と言うのも母と兄を共に癌で亡くしてるんですよ。兄は幼い子供たち3人を残して逝ってしまいましたし、母も私が社会人になるのを待っていたかのように、私が小学校の教員に決まったのを見届けて、ある寒い朝に旅立って行きました。

♪ 寒い ある朝 窓辺に立っていたら 母ちゃん 連れていく 天国
の車がやって来た

やがて あたかもひとりぼっちになるのかな

でもさ、あたしが死んだら また母ちゃんに会えるよね

車屋さくん 車引きさくん 静かに頼みます

あんたが連れていく それは寝ている母ちゃんだからね

涙こらえ どこまでも車のあとを追いかける でも母ちゃんが

墓に入る時 目の前がかすんだよ

やがて あたかもひとりぼっちになるのかな

でもさ、あたしが死んだら また母ちゃんに会えるよね

(「永久の絆」、アメリカ民謡)

癌でがーん！

今の世の中2人に1人、癌になると言われていますけど、我が家の場合を考えてみても両親の片方が癌でしょう、4人兄弟のうち2人が癌。確率2分の1ですから、ごく標準的な世帯だったわけですよ。癌そのものが遺伝するわけじゃないですけど、条件さえそろえば即、癌になるという体質は受け継いでますから、まあしょうがないですわね。

さあそれで、閻魔さんの御指名がいつ掛かるか分からへんから、もう後が無いってんでね。何事も早め早めにやっておこうということで、その点、うちのオットトトなんかたいへん手回しがよくって、私が60歳になる

と同時にちゃんと癌保険に入っていましたし、私の入院と同時に年金の繰り下げ受給ができるように奔走してくれましたし、退院と同時に葬儀屋に連絡して予約も取っていましたし、もう準備万端、あとは死ぬのを待つばかりとなっております。

私の兄嫁なんぞ60歳を目前にして大腸癌で旅立ってしまった。年金なんか払うだけ払って一度も受け取れませんでしたからね。そんなん考えたらアホらして死ねませんわ。あてはそんな甘うおまへんで。払った分はきっちり、返してもらいうまで死ぬつもりありません。

そもそも、なんで癌が見つかったかと言うと、初めにも言った通り定期健診ではないんですよ。ある日のNHK「だましてがってん」(笑)、あら、違いました？ そう「ためしてがってん」で、胃癌になった人は100%ピロリ菌をもっていた、という結果に衝撃を受けてまして、すぐさま検査に行つたんです。と言うのも、私の家族は紛れもない癌系家族でしたから、癌因子になるものは極力取り除いておこうと常々思っていましたのでね。カメラから覗いた自分の胃の中は、既に潰瘍が出来てドロドロで、ただれて血まみれ。思わず目をそむけてしまいました。さすがに素人目に見ても「これはもう終わったな」と覚悟せざるを得ない状態でしたねえ。

♪ ある日突然 二人黙るの あんなに元気に していたけれど
いつか そんな 時が来ると 私には わかっていたの
(「ある日突然」、トワ・エ・モア)

入院、手術

絶望的なステージ4に限りなく近い3のB。それでもなんとか手術が出来そうだというので一縷の望みをかけたんですが「全摘やな」という先生のつぶやきも、どことなく諦めムードでした。とは言え、ステージ4の半歩手前で発見できたのは「ためしてがってん」のお陰と思つたら、あの日以来NHKに足向けて寝られませんか。とりあえず病院で、「先生、胃の中に居るピロリ菌、はよ駆除してください」言うたら、「その必要はないやろ」言われて、自分のアホさを再認識した次第です。

滋賀県にある総合病院に入院することが決まりました。手術を待つている数日間は、舞鶴のかかりつけ医で、強力な抗癌剤を投与するんですが、これがもう尋常ではないんです。抗癌剤というのは、ご承知のように、癌細胞だけでなく正常な細胞まで壊していくのですから、身体の方はたまつたもんじゃありません。とにかくエライんです！ 寝てもエライ、起きてもエライ、坐つてもエライ、どうにも身の置きようがないんです。

おまけに24時間ずっと吐き気が治まらないので、洗面器も手放せません。で、私はその辛さから脱却する為に35年間続けてきたバドミントンに通い続けました。バドミントンって羽つきやないんですよ。あれつて相当ハードなスポーツなんです。プレー中はもう必死ですから、副作用の辛さが一瞬でも忘れられるんです。でも、休憩に入ると途端にゲゲー吐き戻して、自分がもう生きてるんだか、死んでるんだか、分からな

なくなってくるんです。だから休憩なしで常時練習試合に入れてもらってました。もちろん身体はもうへとへとなんです。そんな身体の疲れなんです。抗癌剤の副作用に比べれば何ほどのことでもなかったんです。

そうやってその日を迎えました。

手術前のインフォームドコンセントで聞いてましたら、今の医学って凄いですねえ。手術中は身体の微妙な動きさえも影響しますから、自力呼吸を完全に止めてしまいます。私のように腹腔鏡手術では、もう間に合わなくなつた場合は、従来通り大きくお腹を切り開いて癌を切り取るんですが、その後、皆さんの中にはTVなどでご覧になつたかもしれないんですが、バケツの底をくりぬいたような筒を、切り開いたお腹に差し込んで、そこから大量の抗癌剤と生理食塩水を42度に保つたまま流し込むんです。そして約1時間、身体の中を入念に洗い続けます。42度というのは癌細胞を死滅させるギリギリの温度なんです。デリケートな内臓にとっては強力な熱さですから、腸などは癒着して、腸閉そくを起こしたり、あとが大変なんですよ。

私の身体じゆう、あれも切り取る、これも取ると、まあ派手なこと、人間の身体ってそんなにアレコレ切り取っても大丈夫なのかと感心しているうちに、「ならば、ついでに用済みの子宮も取つといてください」言うてね、この際一緒に取つて貰いました。お陰で子宮癌の心配はありません。

ところがねえ、身体の中にあるべきものが無くなつてスカスカ状態になるとエライことが起こつて来るんです。その後しばらくの間は妙な感覚に

苛まれることになりました。と言うのは、寝ていても右向いたら内臓がザザ〜と右に落ちて行くのが分かるんです。同じように左向いたら今度は左へザザ〜と落ちていきます。さすがに現在は、内臓も落ち着き場所を決めたようです。あのおかしな感覚も消えましたが、それでも食後2時間は相変わらず今でも言いようのない重苦しさがあるんですよ。

よつほど辛気臭い手術やつたんでしようねえ、朝の9時から夜の7時まで10時間もかかりまして、そんな長時間、先生も途中で嫌にならんですかね、私なんかヴァイオリンの練習2時間もしたら頭も身体もメチャメチャ疲れますけどね。やっぱり先生って凄いですね。感謝あるのみです。

私の手術執刀医も若い時から登山が大好きという山男でした。外科医にはタフな人が多いですねえ。手術を執刀するにあたって、中には自分の好きな音楽をかけながら、のりのりで遣る先生もあるそうですね。まあ、そんなこんなで、心配していた通り、私の癌はもう既に臓器の壁を突き破つてリンパ節にまで達しておりました。5か月間の入院中に合計4回も切腹しましたから、見るも無残な身体になりました。切り傷だらけの見事さは、戦国武将に勝るとも劣らない様相です。見苦しいので温泉に入るのも気が引けます。

当たり前なのが喜びに

それでもどこから幸せが転がり込んでくるかわからんもんですね。手術後の身体って、ドレナージとか訳の分らんチューブで一杯繋がれていて身動きできないんです。それが目を追うことに一本ずつ外されていくのが嬉しくてね。最期の一本が抜き取られた時の喜びは今も忘れることができません。自力で呼吸していること、寝返りが打てること、こんな当たり前前なのが喜びに変わるんです。チューブで繋がれて身動き一つできなかった自分を振り返ったら、これが幸せでなくてなんて言えましか。

ドイツのおつちゃんカール・ブッセも言うてます。「山のあなたの空遠く……」、

幸せってそんな遠くにあるもんじゃありません。いつでもすぐ傍に身近にあつたんだって身にしみて思いました。万人が追い求める幸せなど、突然天から降って来るものではありません。

鴨長明曰く。「人間の世界はただ心の持ちよう次第」

早い話が環境は変えられなくても考え方は変えられるってことですよね。うじうじ言うてる暇があつたら楽しいことを見つけて大いに楽しみましょう！

(「私を待つ人がいる」がレコーダーから流される)

入院中のこと

順調に行けば普通は一カ月足らずで退院できる筈だったんですけどね、若い先生がドレナージ、つまり身体に差し込んである細いチューブを間違つて一本早く抜き過ぎちゃつたので、お腹に膿が溜まりだしたんです。痛くてどうにもならんので、もう一度切腹することになりました、本番って言いますか、癌の手術に比べれば小さな手術ですから、局所麻酔だったんですが、自分のお腹にメスが入る瞬間を見るのはさすがの私もやっぱり怖かったです。結局また振り出しに戻つて、チューブにつながれてしまったんですけど、ピンチはチャンス、なんてよく言うじゃないですか。転んでもただ起きるなんてつまらない。落ちてくるお金でも拾つて起き上がる方がいいですねえ。妙な言い方かもしれませんが、入院が長引いたおかげで人生の楽しいページが増えました。

日ごろ貧乏暇なしの私にとってはこの上ない金かダイヤモンドのようなゆつたりした時間が手に入ったんです。それに、なんとたつて3食昼寝付きですからね。おまけに、イケメンの主治医ときたまんだからもう最高ですわ！なんて調子に乗つて浮かれてたら、とんでもない仕事が出来ちゃつたんです。

メスで切つたままの私のお腹の中にはガーゼが詰められていて、そのカ―ゼは溜まつてくる膿を吸わせるものなんです、それを毎日引つ張り出してお腹の中をきれいに洗浄しないとイケないんですね。それがめつちや痛いんですよ。

初めのうちは先生が回診のときにやつてくれたんですが、その内自分でやれと言われましてね。「ガーゼ交換のセルフサービスなんて聞いたことがないわ」笑、つてブツブツ言いながら、しょうがないので覚悟を決めて、自分でやるべく浴室へ行きまして、傷口からガーゼを引張りだすんですが、ためらっている考えましたね。ズルズル引き出すと痛みで耐える時間が長い、一気にガバツと引張り出した方が痛いのは一瞬で済むかもしれん、と思ひまして、恐る恐るガーゼを掴んで一気に引き抜いたんです。もう死ぬほど痛かったです！ だつてねえ、ガーゼは血や膿がこびりついてひっついてたんですからね。それを一気にはがしてしまつたんですよ！ 傷口からはタラ〜と血や膿が流れ落ちてます。

ガーゼを引き抜いたそのお腹の中を、今度はシャワーで洗浄しなきゃいけないんですが、これも勇気が要りました。またいろいろ考えましたね。立ったままでお腹の穴にシャワーを当てたらお腹の中に水が溜まるんやないかなあ。普通そう思いますよね。で、どうしたかと言うと、左手で腕立て伏せをしながら、右手にシャワーを持って、お腹の中を洗つたんです。大体こんなもんやろと思つて病室へ帰ろうとしたんですが、お腹からダラダラと血が流れて、パンツもはけないんですよ。電話で看護師さん呼び出して、処置をしてもらつてようやくよく落ち着いたんですよ、これが毎日の辛い仕事になりました。

同じ外科でも整形なんかだと、切つたり貼つたりで見た目は派手ですが、必ず治ると言う希望がありますからいつも笑い声が聞こえてきます。ところが、そこへいくと、癌病棟は暗いんですよ。

手術直後は私も身動きできませんから、ゆっくり身体を休めて、出来ることと言つたら、先生や看護師さんを相手にからかつては楽しむことくらいでしたけど。そのうちに若い看護師さんが身の上相談を持ちかけてくるようになりましてね笑。受け止める甲斐性はないんですけど、退院してもずっとメールのやりとりは続いてました。御悩み事、いろいろあるんですよ。1年後にその中の一人の若い看護師さんから結婚の報告がきましたね、その時は自分の娘のことのように嬉しくて大喜びしたのがついこの間のようです。

手足が動かせるようになる

身体が動かせない間は、そうやつて持ち前の口を動かして楽しんでたんですが、その内手足がちよつと動かせるようになったらしたもので、この有り余る時間を無駄にしてはもつたいたいと思ひまして、朝から晩まで医者も羨むほど本を読み漁りました。これで空っぽやつた頭もチョツとだけ賢なつたような気がします。今年で82歳になる姉が滋賀県まで往復6時間かけて、舞鶴の図書館から本をどつさり抱えて週2回通つてくれたんですよ。友人も私が歴史物が好きなのをよく知つて古本屋で束にして買って来てくれたりで、まあ、積み上げれば天井に届くほどたくさん読めました。同時に、病室にパソコンが置いてあったので20年前に作った自分のホームページの管理もしてはいたんですが、そこに川柳部屋を新たに作つたりもしましたね。

「イケメンの主治医で退院遅くなり」

なんて投稿したり、川柳部屋ではよく遊びました。

大勢の看護師さんたちもみんな楽しい人ばかりでして、ある夕方、白いパジャマを洗濯して乾燥機に放り込んだんですが、コインの時間切れで生乾きになっちゃったんですね。で、夜のうちにすぐ乾くだろうと思いついて、病室のハンガーに通して点滴用の輪っかにぶら下げておいたんです。その夜、年配の看護師さんが懐中電灯片手に各部屋の見回りにやってくるまで、私の病室を開けた途端、腰を抜かしてしまいましたね。暗闇に白いパジャマを着たおかめが天井から、ぶらぶらと見えたらしい。それと言うのも丁度昼間、その看護師さんに「もう、死んでもかまへんわ。」なんてお喋りしてたのを思い出しましてね。私としては「もう充分楽しんだからいつ死んでもOKやー」と、言っただつたんですけど。癌になって悲観した私が早まったことをしたと思っただつたでしょうね。いやあ、もう平謝りでした。それにしてもね、おかめがそんなことしますかいな！(笑)

歩けるようになる

歩けるようになると、まあ、お付き合ひの方が忙しくなつて来ましてね。病室を行ったり来たりするのがだんだん面倒になつてきまして、とうとう個室から大部屋に変えてもらつたんです。みんな家族みたいなものですから、仕切用のカーテンなど取っ払っちゃいまして。ここだけの話し

ですけどね、女部屋って面白いんですよ、先生のネクタイを褒めちぎったり、若い先生の嫁の心配したりしているうちはいいんですが、そのうち、「オバハン、昼間から大口開けて、大いびきかいて、おまけに大股広げて寝とつたで〜！ 女を忘れとるんとちゃうかあ〜」とか、若い先生の回診日にはわざとエロチックなパンツはいて困らせたり(笑)、周りも「そこまでパンツ下げんでもええやろ〜」とか。まあチョツと人には聞かせられない品のない会話が飛び交うこともあつたりでして。女も50〜60過ぎると怖いんです。先生もおもしろがつて「この部屋は個人情報も何もあつたもんじゃないな〜(笑)、つて暇さえあれば遊びにくるんですよ。もちろん、ほかの部屋の患者も男女を問わずひっきりなしにやつて来ては遊んで帰るんです。」

その中にね、まあ立派な入れ墨をしたヤっちゃんまで居まして、どうせ、先のないオバサンばかりですから、そこはもう怖いモン知らずですわ。入れ墨なんて映画でしか見たことないもんでねえ。「冥土への土産や、手足だけじゃなくて、隠れとることも全部見せてんか！」言うてね。取り囲まれて、たじろぐヤっちゃんのパンツまで全部脱がせてしまいました(笑)。全身の入れ墨言うもんをあんだけ真近でじっくり見せてもらったのは初めてです。それにしてもほんまに綺麗なもんでした。あれもなかなかの芸術ですね。このヤっちゃんも今は夜空のお星様になつてます。根はやさしいお兄さんやつたから、きっと閻魔さんとも喧嘩せんように上手くやつてると思います。

部屋の人気が高まる一方で、空気が出たら私もあの部屋へ入れて欲

しいと予約する人が次々と出て来ましてね笑。いやはや、ますます病院中で一番うるさい部屋になってしまいました。

患者組合みたいなもんを作りまして

そうこうしてるうちに患者のいろんな不平、不満を聞くようになってきたんですね。生きていく上でとかく頭をもたげる不平不満。言いかえれば満足できないってことですから、それならば満足度を上げること考えてみたらどうかと思ひまして、私はかねてより、相手に対する要求水準を最初から低めに設定しておくという方法で対処してきました。それでわりと腹を立てたりガツカリすることも減つたような気がしてたんですが、患者仲間では食事関係の不満が多かつたもんですから、これは改善の余地があると思ひまして、患者組合みたいなもんを作りまして要求書を出したんです。

「最近味噌汁が出ないからもっと増やしてんか」とか、「おやつがワンパターで楽しみがない」とか、ほんまにアホみたいなことなんですけどね。すると献立係さんが定期的に病室へアンケートを取りに来てくれるようになりましてね、これは一つの成果でした。一步を踏み出す時に状況を見過ぎて守りに入ってしまう慎重な人も多いですが、何もしなければそのままです。私達はお陰で美味しい味噌汁が毎朝出るようになりましてし、おやつも日替わりになりました。小さなことでもやつぱり行動することの大切さを学んだ一件でした。

病院生活は長かつたんですが、もう楽し過ぎて「帰りたくない」とオツトツを困らせるほどで、まあそういう訳にも行きませんから、「癌友会」作つて待つとくからね」と、病院に残っている仲間に残して懐かしい我が家に帰ってきたんですが、私の居ないうちに愛犬が寂しさのあまり、これまた癌に罹つてまして「お前が先か私が先か」と言いながら一緒に散歩してたんですが、そのうちとうとう私を残して先に逝つてしまいました。

癌友会

癌患者は孤独です。肉体の苦しみはもちろん、社会的なこと、精神的なこと、経済的なこと、さまざまな苦しみは誰にも分かつてもらえませぬ。情報交換をしながら同じ立場で分かり会える仲間として互いに励まし合い、楽しい時間を共有することによって、病苦を乗り越えていく氣力を養う場が要る！そう思つた私は「癌友会」を立ち上げました。

ひらがなで「わ会」と書いてありますが、この「わ」にはいろんな意味が込められています。1. 和やかな会のおわ、2. 交流を大切に輪のおわ、3. お喋りを楽しむ会話のおわ、4. それに何よりも氣持が若い！。入会資格、癌であること。信条、死ぬまで生きる。例会は居酒屋「おかめ庵」で、毎月第3土曜日の12時半より。居酒屋「おかめ庵」というのは、オツトツが料理が好きで、本を見てはそれらを作つて人を呼んで、お酒など飲んで、それが趣味が昂じて作つた居酒屋です。営業は夜だけですよ。

で、昼間は空いているということでもここで開いていました。

「私も立派な癌です」と言いながら入会してくる人がどんどん出て来まして、最初は4人に声をかけてスタートしたんですが、最終的に男女合わせて16名集まりました。自宅で一人居るとますます辛くなって、すっかり病人になってしまふんです。「病気になるっても病人になつたらあかんで！」と言うのが私の口癖でして、ウジウジ言うてるおっさんには、「なにをジジ臭いこと言うてるねん！」て、活を入れてやるんですよ。

身体がえらいのしんどいの、髪の毛が抜けたの、禿げたのと、グダグダ泣きごと言うてるオバサンには、「泣きごと言うたらんと、しんどいけど、それつてみんな通つてきた道や、もうちよつと我慢したらこうなるよ！」とか言つてね。オットットの協力も得ながら、毎月召集令状かけてたんですが、みんなこれだけは凄く楽しみにしてくれましてね、いろんな情報交換をして不安も取り除かれ、まあ良く喋るし元気になるんです。

やりたいことを遣る

自宅では殆どご飯が食へられない人も、ここではウソみたいによく食べるんですよ。そうやって癌友仲間と楽しくやつてるうちに自分もどんどん元気が出て来ましてね。先が無いんやったら、この際、遣りたかったこととは迷わずやつとこつて気になりまして、まずは入院中已む無く閉鎖していた英語教室を再開しました。それから学校図書館司書ボランティア

アとして、学校で読み聞かせをしたりして子供たち相手に楽しんでます。音楽が好きで鍵盤楽器、とりわけエレクトーンをよく弾いてるんですけど、ヴァイオリンへの憧れが消えませんが、それも習い始めました。綾部の和紙工房にも一年間通い続け、紙漉きをして作品展に出品させていただきました。俳句の講座に、コーラスサークル、それから舞鶴の観光ガイド、第九合唱団にも参加しましたし、FM放送のパソナリティーやら、最近はおークバンドも組んで練習に励んでます。その他諸々両手の指では足りないほどの欲張り様でして、いろんなとこへ首突っ込んでる内に友人知人もどんどん増えまして、まあ毎日が忙しいのなんのつて！

術後、経過

昨年まで、再発防止の為に朝昼晩と嫌な抗癌剤を飲みながら毎週点滴を打つていたんですが、そのほかにも年に1回、滋賀県の大きな病院(ペットという全身検査を受けに行つてるんです。手術から1年経過して行つた時は主治医も「おう、生きてるか」言うて迎えてくれたんですけど、2年目になると主治医の他に手術の執刀医もやってきて、私の顔を見るなり「まだ、生きとつたんか」と、口に出してまで言いませんけど見え見えでした。それが3年目になると、今度はまたひとり全然関係のない先生まで出て来まして、パソコン上のデータと私の顔を見比べながら3人揃つて首をかしげるんですよ。そして4年目になると、その3人がね、

パソコン上のデータと私の顔をつくづく見比べながら言うにはね、「あなたは年末ジャンボ宝くじに当たったようなもんや。」それほど確率の低い所で幸運にも生き延びてることと言いたかつたんやと思えますが、それにしてもなんちゅう例えや。ねえ。

5年目に近づいた頃、行ったら今度は、「あんたはサラ金から仰山の金を借りたまま、そのサラ金業者が倒産しておらんようになってもたようなもんやな」と、訳の分らんことを言いだすんで(笑)、「はあ？」って、口あけてたら、「丸儲け！ あんたはもう死なん！」言われました。これがホンマやったらええんですけどね。

先生は自分が手術した患者の追跡調査をしておられるようですが、どうやら私は5年生存率を上げるのにしっかり貢献したみたいですよ。ってことで、死亡予定年数を大幅に過ぎてしまったこのわたくし、丁度この4月で7年も経ってしまったんですが、一向に死にそうな気配もありません。それどころか、一病息災といえますか、毎月の検査で常に自分の身体の状態が把握できているもんですから、健康に気を付けて、まずまず元気になる一方で、もしかしたら平均寿命も上回ってしまうんじゃないかと思ってるこの頃なんです。

とは言え、16名いた癌友会のメンバーですが、現状はかなり厳しく、現在生き残っているのは、私を含めあつかましいオバアが2人だけになってしまいました。男はあきませんね。精神的に弱い。だから旅立つのが早いです。そこへ行くと女はずうずうしいと言うか、よく言えば適応力があるんでしょうね。2年後には女ばかりになってしまいました。それ

もつかの間、ひとりまた一人と旅立つて行きました。

♪ さよなら わたしの懐かしい友 わたしを育ててくれた人

今は遠く 空の上から いつも見ていてね
めぐる季節 流れる時 人生のそれぞれに

終わりがあり 初めがある そして別れがある そして別れがある
（「青春の歌—さよなら」、高石ともやとザ・ナターシャ・セブン）

私も何人かの死に際に立ち会ったんですが、うじうじしていた初めの頃と違って死ぬことへの恐怖も消え去りまして、気持ち的にはみんな元気に死んでいきました。まあ、あつちも今頃にぎやかでしょうね。「そのうち私も逝くから場所空けて待つってな！」なんて冗談が言えるくらいでしたからね。

癌友の一人が亡くなった時のことでした。

類は類を呼ぶと申しますか、私の友人にもボケたオバサンがおりまして、葬儀の当日、彼女は別件で忙しくしておりまして、時間の遅れを気にしながらあたふた駆けつけましてね。受付で香典を渡してから、汗をふきふき伏し目がちにお焼香に進み出まして、手を合わせました。そこで顔を上げて故人の写真を仰いだら、なんと！全く知らないよその人だつたんです。どうやら葬儀場を間違えたんですね。舞鶴も高齢化社会に向けて近頃はあつちやつちやに葬儀場が増えてますから、しつかり場所を確認しとかんとこういうことになつちやうんですよね。あわてて

また別の葬儀場へ向かったんですが、葬式のはしごなんてねえ、私はしたことありません。

病は気から

「病は気から」って言いますが、まんざらでもないというか、的を得ているのではないかと近頃は思えてきたんですよね。私がここまで生きながらえているのは、医学の進歩もさりながら、もしかしたら毎日をワクワクドキドキしながらアドレナリンを放出して生きているからかも知れません。専門バカを見るとすぐ好きになってしまうんですよ。もしかしたら、恋と憧れの区別が出来ないのかもしれない。

入院中はカッコいい外科医に憧れて、先生が一日2回病室を訪問してくれるのを楽しみにいつもワクワクドキドキしてたんですね。退院してコーラスサークルに戻ったら、なんとこれまた若くて素敵な先生に変わってるじゃないですか！ その美しい歌声に惚れ惚れしちゃいました。憧れのヴァイオリンを始めたら、弾いている先生があまりにもカッコ良過ぎて一気に好きになってしまっし、世の中には素敵な人が多過ぎて困ってしまいます。まあ、専門バカというのはウチのオットトくらいで、今言った先生方は皆さん専門分野に限らず、それ以外でも立派な方ばかりなんですけどね。

♪ ひとみのきれいな あの人が好き 彼はわたしより お酒が好き
しらゆき はくしか 北の誉れ 朝日 サッポロ サントリー キリン
一番搾り♪ (「酒の歌」、高石ともやとザ・ナターシャ・セブン)

知好楽

今年のバレンタインデーには、今一緒にバンド組んで歌ってるおじい共には義理チョコを渡しながらも、本命の先生方には渡せませんでした。オットトも応援してくれるんですけれどね。なぜなら先生はみんなから慕われてますからね、抜け駆けはできません。フェアにいかないと。って訳で、練習を頑張って先生の関心を引こうなんて、動機が不純ですねえ。コーラスに行くときもヴァイオリンに行くときも先生に会えるのが楽しみで、思わずにやけてきてルンルン気分になってしまっんです。そんな訳で、みんなお互いに切磋琢磨して楽しみながら練習を癌ばってます。

練習と言えば、今一緒にバンド組んで歌ってるおじい共ですが、50年前によく一緒に歌ったり遊んだりした仲間なんです。この50年間付かず離れず、ある時は年賀状のやり取りだけと、いう年もありましたけれど、さすがに私が癌になったと聞くと、すぐさま飛んできてくれました。その後まさかこの歳になつてから、また昔の愉快な仲間と好きな歌が歌える、こんな楽しいことが待っていたなんて思いもありませんでした。生きていて良かった！

論語に「知好楽」って言葉があるじゃないですか。物知りでいくら良く

知っていても、それを好きな人にはかなわない。いくら好きな人でも、それを楽しんでいる人にはもつとかなわない。何でも楽しむって最高のことなんです。人生はやっぱり進歩です。最上のは過去のではなくて、将来にあるんです。まだまだこれからどんな楽しいことが、どんな幸せが、待っているか分かりません！

♪ ちいさな ちいさな しあわせは ちいさな ちいさな

よろこびから いっだって どこだって 見つかるよ ちいさな

よろこび かみさまが 教えてくれた いつも

よろこんでいなさいと

ちいさなしあわせは ほんとは 大きなしあわせ

(「小さな幸せ」、合唱曲)

十人十色、多くの方々とお会いしている内にいろんな人生の形が見えて来ました。人生いろいろ、隣の芝生じゃないけれど、比べること自体がつまらなく思えてきます。比較して感じる幸福なんて、そんなに長続きしませんよね。だって、もつと幸せそうな人に出会えば、すぐ。シヤンコになつちやいますからね。我が身の不運を乗り越え、「足るを知る」、そんな人になりたいし、なり得てこそ、他人にも優しくでき、顔つきも穏やかになるのかも知れません。人はそんな時、最も美しくなれるんじゃないでしょうか。

教え子とクラス会

昨年は41年前に教えた子ども達が突然騒ぎ始めまして、ここにも座つてますけれど、数十年前から計画しながら延び延びになっていたクラス会を開いてくれたんですけど、ここへ来てなんでまたと思つたら、どうやら私が癌で近々死ぬかもしれないからなんとか間に合わせようという魂胆だったようです。ところが、会つてみて、まだ死にそうにもないと思つたのか。元気なうちにこれから毎年やろうということになりました。今年も来月の連休にまたクラス会をひらいてくれるそうなので楽しみにしております。

教え子と言つてもなにしろ41年前ですからもう53歳にもなるおじさん、おばさんでして、頭がバーコードの男子や、体形が少し崩れかけた女子など、若干時の移ろいの残酷さも感じられますが、実に和気あいあいとした雰囲気の中で、昨年の出席者26名全員が40年前にタイムスリップしておりました。

今はスカイプと言う便利なものがございまして、仕事の都合が付かず残念ながら実際には来られなくても参加はできるんですよ。壁に映して東京に居ながら参加した子もおりました。準備も大変なんです。が、全国に散らばっている幹事達もスカイプで電話会議を重ねて、実際に会うのは当日だけというふうなことで、まさに時代の流れを感じさせられますね。クラス会の動画もたくさんユーチューブに保存してくれてますので、いつでもあの楽しい時間に浸ることができます。今は彼らの笑

顔も私にとって何よりの栄養剤になっております。

社会人になった当初は私の息子にお年玉を持ってきたり、恋人が出来るかと早速連れてきたり、仲人を頼みに来る子もいたり、卒業後もずっと我が家に入入りしておりまして、今に至っても舞鶴在住の女の子達が、庭のカボチャを収穫する度に、パンプキンケーキを作ってくれますし、庭にキーウイが鈴なりになると、ねじり鉢巻きをした男の子達が摘果をしに来てくれるんです。全国に散らばっている子たちとも近年はラインで毎日お喋りしてますし、分からないことは教えてもらいます。昔と立場が逆転しまして、何でも教え子達から学び、彼らに助けられているのです。今は彼らが私の力強い味方となっております。

♪ 生きている鳥たちが 生きて飛び回る空を あなたに残しておいて
やれるだろうか 先生は 目を閉じてごらんなさい

山が見えるでしょう 近づいてごらんなさい こぶしの花が咲くでしょう

(「生きている君たちに」、高石ともやとザ・ナターシャ・セブン)

最後に、私の大好きな関取、宇良が場所前にTVで言っていた言葉を皆さんにも是非聞いて頂きたいと思えます。

「たとえ土俵の際を背負っていても逆転のチャンスはあるんです。諦めない相撲を心掛けています。」

15日間最後まで、自分の相撲を取りきることが大事です。」

これは、まさに、今の私に「生きるすべ」を教えてくれたような気が致しました。本日はこんな取りとめのない下手な話しにも拘らず、最後までお耳を傾けてくださりまして誠にありがとうございます。「名田庄多聞の会」のますますのご発展と皆様のご健康をお祈りしながら終わらせて頂きます。ありがとうございます。

(長い拍手)

講演後の質疑応答

早川 ありがとうございます。とても貴重な話を聞かせていただきました。恐ろしい話や楽しい話やいろいろ、ライブと違ってやりにくかったのではないかと思います。皆さま、いい機会ですのでなにかお訊きしたいことはございませんか。

早川 お聞きしていて恐ろしかったのですが、おなかのカーゼを自分で交換するという、あんな恐ろしいことをなぜ自分でやらなければいけないのですか(笑)。不思議な気がしたのですが。

阿部 わたしもそう思いましたが、むかしは傷口などは消毒したのです。いまは消毒じゃないんです。洗浄が大事なのです。とにかく洗え、洗えなのです。寝ている状態ではちゃんとした洗浄ができないのです。だからシャワーでシャワーと洗うのがいいみたいですね。シャワーで洗うのなら自

分で洗えと。

早川 入院は何ヶ月だったのですか。

阿部 5ヶ月です。普通は30日足らずで退院されるのですが、胃癌の手術なんかだと。

参加者A 癌になられる前となって手術した後とで食生活はどういうふうになりましたか。変わったとか。

阿部 まったく変わりません。同じですけど、いまは胃がないので入量は少ないので、前ほどたくさんは食べられません。栄養はちゃんと摂らなければいけないので、炭水化物を抑えて栄養価の高いものでお腹をふくらせるようにしています。

参加者A それは医者からこのようなものを食べなさいと指示があったからですか。

阿部 いえ、全然ないです。自分で判断して自分でやっています。

早川 癌友会の会員が16名おられていまは2名になったという話でしたが、男はだめだと言われ、なるほどなと思いましたが(笑)、やはり一般的にそうですかね。

阿部 そうですね、男のひとつて精神的に弱いように思いますね。すぐにガンとくるんですね。男の人は癌にならんようにしてください。

参加者B 私が阿部さんと初めてお会いしたのは舞鶴の赤煉瓦のコンサートでした。そのときに病気のことをちらつとお話しされて、歌を歌われたり、話をされたり、でした。この名田庄多聞の会の講師の方を探しているときだったので、是非来ていただいて話を聞きたいと思いました。

人との出会いと言いますか、それは、長いこといっしょだったとか、そういうことではなくて、ああこの人だということがありますね。それで今日来ていただいたのですが、過去の話から今日現在に到るまでのことを聞かせていただいて、自分一人だけ話が聞けたのでなくてここにいらつしゃった方皆さまに阿部様の話を聞いていただき、楽しく生きておられることを知ることができ、本当に素晴らしいなと思いました。人生の先輩が楽しみながら生きておられる、先ほどは生きる覚悟、生き方ということだったと思いますが、今後聞かせていただきたいと思っています。ほんとうにありがとうございます。

早川 それではこれで閉会といたします。どうも長いことありがとうございました。

(拍手)。

一・参加者(20名)

朝日年男、池田寿美重、上羽久子、植茶伊津子、植茶英男

小野律子、富永栄一、富永伊都子、中野英二、新田昭彦、

新田美樹、早川博信、早川眞理子、速水真由美、福本千枝子、

福本人司、丸山幾代、山口孝志、渡辺俊策、渡辺緑

二・発言者(2名)

A(60代、男性)

B(50代、女性)